

プラセンタ治療の革新へ ～過去から未来を切り開く～

日本臍帯・胎盤研究会 副会長

清水 伸一

清水整形外科クリニック 院長



プラセンタは、過去にも使われてきました。現代でも実際に使っ
ていただき豊かな幸せを実感してもらうことが大事だと思ってい
ます。今更プラセンタの研究なんて無駄、くだらない、もうわかって
いる、という人もいます。

しかし私はそのくだらない研究にもまだまだ大きな効果が期待できると考えています。

現在のプラセンタのイノベーションをもっと大きなイノベーションに変えていくことが必要な
のです。これがプラセンタの大革新につながると思います。

今回はメルスモン、ラエンネックの成分分析についてさらに調査し、わかったことを報告しま
す。そして、臨床においても患者さんからのデータの集積と解析をしました。

時間の許す限り、ご報告いたします。

プラセンタ治療はやはり多様な治療効果を引き起こし、その理由は不明ですが、何かが体
の中で変わった結果だと思います。これからも日本臍帯・胎盤研究会で、ぜひ引き続きデータの集
積と解析を続けていきたいと思えます。副作用がなく、大きな効果が期待できます。これは使わ
ない手はありません。

治療に幅ができる、患者からも喜ばれれば、それは現代の治療の革新と思われれます。
前回プラセンタ治療をエコー評価し今回発表する予定でしたが、長期フォローアップした方が
いいようなので、次回データがまとまり次第ご報告できればと考えています。

自律神経の可能性とスポーツ医学への応用

東京オリンピック開催に向けた医師ができる
～アスリートサポートを自律神経からアプローチ～

日本臍帯・胎盤研究会 筆頭理事

末武 信宏

さかえクリニック 院長



プラセンタ療法が自律神経に影響を及ぼすことはすでに広く
知られているが、実際、臨床現場では自律神経機能の定量評価が
殆ど行われておらず、臨床症状からの判断によるものがほとんど
である。

残念ながら生体情報として有用な自律神経検査も医学部の教育の中に組み込まれず専門
医においても自律神経に関する知識が不足しているのが現状である。

心拍変動解析による自律神経機能定量評価はすでに世界標準の検査となり欧米では宇宙
開発の地上実験プログラムや軍事関連でのPTSDケアプログラムで導入されている。

また、本来、健康法やエクササイズ、トレーニングは医師が主導として行うべきことであるが、
残念ながら日々の診療業務の時間的制約から医師がトレーニング指導を行なわれていること
はほとんどない。

これまでスポーツ界ではフィジカルトレーニングが重視されウエイトトレーニング、サーキット
トレーニング、体幹トレーニングなど数々のトレーニング法がフィジカルトレーナー達によって
アスリートへの指導が行われてきた。しかしエビデンスが乏しいものやトレーナー自身の経験
や勘に頼るトレーニング法やエクササイズが少なくない。ロンドン五輪でもメダルが期待される
と各メディアが大きく報じていた長距離陸上選手がパーソナルトレーナーに指導を受けていた
が、結果は散々たるものであった。

巷にあふれるエクササイズや健康法は筋肉に焦点を当て、身体の動きのみを重視したもの
で人間のソフトウェアともいえる自律神経に関して考えられているものはほとんどない。

2020年、東京オリンピックに向けて自律神経への医療従事者の理解とエビデンスがあるト
レーニング法の確立、普及が我々国民の健康を担う最先端にいる者にとって急務であると思
える。

我々は長年、多くのトップアスリートに対し自律神経機能検査を行い、競技パフォーマンス向
上のための自律神経トレーニング指導を行ってきた。

今回の講演の中で健康、スポーツ領域における自律神経へのアプローチによる可能性を解
説したい。